



一宮町長
馬淵 昌也

新型コロナウイルス感染症拡大のゆえがはつきりしません。東京の感染者数は、9月26日は270名とだいぶ増えています。これから寒くなりますが、一般に、寒くて乾燥する時期は、風邪がはやります。風邪の原因の相当部分は、従来型コロナウイルスによるものだと思いますので、寒くなれば、コロナウイルスはパワーを増すとも考えられます。

こうした中で、一宮町も油断はできません。町では、新型コロナウイルスの問題への対応として、感染防止の各種施策を進めています。災害時の避難所の体制を、感染防止の視点を重視したものに改めていることは、本誌でも紹介されていますが、こうした感染防止対策を行う一方で、コロナ問題で打撃を受けた住民の皆さんの暮らしを、経済的に支える各種施策も行ってきました。

まず、国からの給付金、①町民に一人10万円を支給する「特別定額給付金」、②児童手当を受給しているお子さんに、一人1万円を支給する「子育て世代への臨時特別給付金」を、国に代わって支給しました。

町独自の施策としては、③18歳以下のお子さんに一人につき1万円を支給

し、ひとり親家庭のお子さんには3万円を追加支給する「子育て世帯応援給付金」、④前年度同月比で売り上げが50%を下回った事業者の方に10万円を支給する「中小企業再建支援事業」などを実施しました。

先般の9月議会では、さらに今後の町の独自施策として、⑤4月28日以後に生まれたお子さんに10万円ずつ支給する「一宮町赤ちゃん応援臨時給付金」、⑥町民一人につき5千円の商品券を支給する「いちのみや地域応援券」の実施を認めていただきました。これらの施策については、現在鋭意作業中ですので、これから順次皆様のもとへ詳細なお知らせが届くことになるかと思えます。

これらの施策にあわせて、心配などに直ちにPCR検査を受けられる体制を作ることが急務です。町では、県に要望を提出しましたが、最近になって、医師会のリードにより、唾液検査が導入される見通しが立つてきたのは、嬉しいニュースです。

わたくしどもの対応は、いまだ暗中模索の域を出るものではありませんが、こうした施策が、少しでも皆さんの暮らしを守ることにつながることを、心から願っています。